

# 豊庄だより



第 690 号 2021 年 12 月 13 日

昨年に引き続き、今年も新型コロナウイルス感染予防のため、生活発表会は 2 日に分けて行わなければならなくなりました。1 日目(12 月 10 日)は、もも、さくら、すみれ、ばら組の発表でした(無観客でビデオ撮影)。2 日目は、ゆり、ひまわり組。1 家庭 1 人と制限をしましたが、子どもたちは、のびのびと練習の成果を見せてくれました。

福岡市早良区南庄 2-26-13  
社会福祉法人林生会豊庄保育園  
園長 西尾 達



▲もも組の 9 人を乗せたバスが出発しました。ゴリラ、チンパンジー、ライオンに出会い、歌を歌ったり、楽器で遊んだりして楽しみました。リズムに乗り、体を揺らし、表現力も豊かでした。誰一人泣かずに発表ができました。



▲それぞれの動物に変身して、ぞうさんのぼうしを探しに出発。ねこ、きつね、たぬきになりきるため、体全体を使って表現していました。



▲ちいやぎ、ちゅうやぎ、おおやぎとトロールのかわいらしいやり取り。絵本の読み聞かせでいつも接しているお話を、すみれ組オリジナルの劇にして発表してくれました。



▲絵本の読み聞かせの中でも、お気に入りの昔話「おむすびころりん」。おじいさんが、おむすびを落としてしまい、その時、マットの上で転がるおむすびとねこ。おもしろい展開でした。



▲1回目、2回目のリハーサル、そして本番と、発表の舞台を重ねるごとに、初めは緊張や不安で小さかった声や動きが、すばらしく変化していくのを感じました。うた「ジグザクおさんぽ」、合奏「ドレミのうた」も毎日の練習の成果が出ていました。



▲幕が閉じてもジーンと心に残る劇でした。悲しさ、孤独から、力を合わせることの大切さなど、「スイミー」のテーマが観る人に伝わったのではないのでしょうか。歌は、きれいな声が出ていました。合奏も曲名通り、威風堂々とした演奏でした。

※現在、ビデオ撮影したものを、DVD, Blue Ray にダビングしています。